

本年度の重点	1	児童は教育目標に向かっているか
目標（評価規準）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校生活の中で、児童は「自立」し、向上心をもって「生きる力」を育む事ができる。</li> <li>・児童は、社会や他者に貢献することで、「自立」し、「生きる力」を育む事ができる。</li> <li>・児童は、楽しく学校生活を送ることができる。</li> </ul>
重点に係る現状 設定理由		<p>○本校教育目標「自立⇄貢献」の具現化を図るために、児童並び教職員がその意義を捉えながら一定の成果が積み上げられてきた。児童が自立するために必要な学力の向上をさらにはかっていく必要がある。また、自己と他者の関係づくりのために積極的に進めている文化的行事を継続していきたい。</p>

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>○「学校教育目標・学年目標等を日々の教育活動に生かしている」の設問に対して、良好な結果が得られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「運動会」や「かがやきのつどい」などでは、当日の活動だけでなく、準備や練習の段階から児童が主体的に活動している姿、すなわち、自立に向かっている姿が多くみられた。</li> <li>○「職員のプロ意識のもと、教育活動がなされている。」「課題や悩みになどについて、他の職員に相談しやすい環境である」の設問に対して、良好な結果が得られた。</li> <li>・職員が協力しながら教育目標の実現に尽力していることがうかがえた。</li> </ul>
各アンケート等の結果	<p>○保護者アンケートによると、保護者の児童の様子に対する評価、学校の児童への働きかけに対する評価について、いずれも肯定的な評価が90%をこえていた。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○年間を通じて、全校が落ち着いた雰囲気教育目標に向かう姿が見られた。落ち着いているということは、その時その時の学習や活動に集中している姿とも解釈できる。よって、児童は、「自立」「貢献」に向けて努力していると言えるだろう。</p> <p>○本校の大きな行事である「かがやきのつどい」でも、自分らしさを大切にしながら、自信をもって表現する姿が見られた。このつどいによって、児童が「さらに自分に自信をもった」と解釈している。今後も、児童に自信をもたせること、すなわち自己肯定感を高めていくことを大切に教育活動を展開したい。そして、「自立」をさらに促したい。</p> <p>○児童会主催の「6年生を送る会」は、在校生が6年生に感謝の気持ちを伝える会、6年生はそれにこたえる会というねらいで行っている。在校生は、自分の感謝の気持ちがしっかり6年生に届くように発表している姿が見られた。また、6年生は、その在校生にこたえている姿が見られた。この様子からも、互いに「貢献してきた」ことが理解できた。これからも、学校全体が一体となって「仲間意識」が醸成されるようにしていきたい。そして、「貢献する心」を育てていきたい。</p>
学校関係者評価結果	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施。</p>
最終改善方策	<p>自己評価結果（見解と改善方策）と同様。</p>

## 本年度の重点に対する評価

本年度の重点	2	教職員は、児童の健やかな成長のために自らを高め、貢献することができたか。
目標（評価規準）		・児童一人ひとりが、安心して楽しく活動ができる学級・学年・学校を確立する。 ・明るく元気な挨拶や優しい言葉の掛け合い、自己肯定感や他者を思いやることのできる学級・学年・学校を確立する。
重点に係る現状 設定理由		○昨年度までの学校経営状況を顧みると一定の成果をあげることができていると評価できる。しかしながら、教師が、まず、一人ひとりの児童をしっかりと理解し、その理解の上で授業や学級づくりを進めていくことは常に肝要である。そのための児童理解力、児童指導力、授業力等、教師としての力量を高めていかなければならないと考える。また、児童にとってより良い教育環境の整備も求められていると考える。

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○「私は、プロ意識をもって教育活動にあっている」という設問に対する回答が、全設問の中で、もっとも評価結果が高かった。これは、職員一人ひとりが、自らを高め続けながらプロとしての力を伸ばして、子どもに貢献しようとしていると解釈できる。 ○「上宮田小学校は、課題や悩みなどについて、他の職員に相談しやすい環境である」という設問に対する回答が、全設問の中で2番目に高かった。他からアドバイスを受けながら、自らを高めて子どもに貢献しようとしていると解釈できる。
各アンケート等の結果	○保護者アンケートでは、「子どものことを理解しようとし、適切な指導をしている」についての肯定的な回答が96%、学校は、自立の礎となる基礎・基本を身につかせようとしている」についての肯定的な回答が98%など、概ね良好な評価を得た。教職員の児童に対する働きかけが児童の成長に有効に働いていると解釈できる。
自己評価結果 (見解と改善方策)	○職員アンケート「課題や悩みなどについて、他の職員に相談しやすい環境である」という設問に対して、高い評価結果になっている。このことから、職員が、互いに相談、助言等を交わす中で自らを高めていこうという意識が高いことがわかる。 ○日々の教育活動を充実させるため、職員は真摯に子どもに向き合う姿が見られた。経験が豊かな職員は、自らが培ってきたことを伝える姿、経験が浅い職員は、経験が豊かな職員から学ぶ姿を多く見ることができた。 ○1月末に実施した「公開授業研究会」に向けての取組、当日の授業公開、協議、運営等、「井の中の蛙にならないように」という考え方のもと、来校者から多くのことを学ぼうとする姿勢がうかがえた。向上心がさらに高まったと解釈している。 ○今後も校内で切磋琢磨しながら、自らの力を磨き、それをもとに協働して子どもに向き合う職場づくりに向かいたい。
学校関係者評価結果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施。
最終改善方策	自己評価結果（見解と改善方策）と同様。

## 本年度の重点に対する評価

本年度の重点	3	学校関係者との連携は深化したか
目標（評価規準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の向上心を高めるため、指導場面において外部協力者等の地域の教育力の活用を図る。</li> <li>・児童の安全確保のために地域や保護者と連携した活動の充実を図る。</li> </ul>	
重点に係る現状 設定理由	<p>○登下校を中心とした地域における児童の安心・安全の確保においても「見守り隊」の皆さんの多大な協力を受けている。また、図書ボランティア等、「地域の先生」として学校教育の様々な場面に於いて、地域の方々の協力を受けている。これまで以上に地域や関係機関との連携、相互の理解を深めることで、児童が地域に対する思いをしっかりと持ち、地域で生きる一員としての自覚をさらに深めさせたい。</p>	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	○「家庭・地域との連携」に関わって、個々の構えを問う設問も、学校全体について問う設問についても、良好な評価が得られた。
各アンケート等の結果	○保護者アンケート「学校は、家庭との連絡や相談を充実させ連携しようとしている。」「地域の教育力の活用や保護者・地域の連携はできている」の設問に対して、肯定的な回答が90%をこえた。
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>○「外部講師」を招くことで、より専門的な情報を児童へ提供することができた。また、「地元愛」「三浦愛」の育成にもつながった。</p> <p>○学習過程の中で、直接経験を大切にするため、地域へ出かけての授業を積極的に行ってきた。</p> <p>○「図書ボランティア」の「読み聞かせ」の活動により、児童の集中力や情操が養われ、全体的な穏やかな雰囲気につながっている。</p> <p>○PTA活動、「やまもも」の会の活動が、児童の安心感につながっていると、安全確保に大きな役割を果たしている。</p> <p>○「子ども見守り隊」の活動が、児童の安全確保に大いに役立っていただいている。</p> <p>○今後は、50周年記念事業に向けて、家庭・地域・関係諸団体との連携をさらに深めていきたい。</p>
学校関係者評価結果	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校評価委員会未実施。
最終改善方策	自己評価結果（見解と改善方策）と同様。